

令和 7 年度指定管理者評価書

(令和 8 年度実施分)

猪名川上流広域ごみ処理施設組合

評価の概要

- (1) 施設名称
国崎クリーンセンター啓発施設
- (2) 施設の設置目的
ごみ減量及びリサイクルに関する情報の発信。並びに自然や環境問題について学習を通じ循環型社会の構築に寄与することを目的とする。
- (3) 指定管理者
株式会社トータルメディア開発研究所
- (4) 選定方法及び指定期間
選定方法： 公募
指定期間： 令和4年4月1日から令和11年3月31日まで
- (5) 評価対象期間
令和7年4月1日から令和8年3月31日まで
- (6) 指定管理委託料（令和7年度）
66,314千円

1 評価指標

- (1) 個別項目評価
- A： 協定書、事業計画書等の内容について、すべての業務計画を達成し、優れた管理・運営が行われている。
- B： ほぼ（8割超）業務計画の内容を達成し、計画とおりの実績（効果）があり、適切な管理・運営が行われている。
- C： 概ね（6割以上8割以下）業務計画の内容を達成しているが、一部改善・工夫が必要である。
- D： 協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。
- (2) 総括評価 ※管理体制評価／経営状況評価／運営事業評価
- A： 個別項目評価が全てB以上であり、かつAが半数以上である。
- B： 個別項目評価の全てがB以上である。
- C： 個別項目評価にCが1つでも含まれる。
- D： 個別項目評価にDが1つでも含まれる。

- (3) 総合評価
- S： 総括評価の全てがAである。
- A： 総括評価が全てB以上であり、かつAが2つ。
- B： 総括評価が全てB以上である。
- C： 総括評価にCが1つでも含まれる。
- D： 総括評価にDが1つでも含まれる。

2 所管課確認項目

- 管理体制に関する項目（所管課チェック）
 - ① 施設の点検・保守管理 ☒
 - ・ 協定で定める管理物件について、適切に管理されている。
 - ・ 定期的に安全確認を行い、組合に報告されている。
 - ② 個人情報保護 ☒
 - ・ 収集した個人情報は適切に管理されている。
 - ・ 個人情報を目的外利用していない。
 - ③ 文書管理 ☒
 - ・ 文書・帳簿等が適正に作成・管理されている。
 - ④ 備品管理 ☒
 - ・ 備品台帳が整備されている。
 - ⑤ 指定管理者が行う修繕 ☒
 - ・ 協定に定める管理物件の修繕について、適切に実施されている。
 - ・ 修繕箇所について、随時、組合に報告されている。
- 上記1～5についての所管課所見
「いずれの評価項目においても適正に管理、執行されていることを確認し、良好であると評価する。」

項 目	評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
管理体制等に関する項目	1 (適正な人員配置)	- 令和 7 年度業務計画書に則って職員を適材適所で配置し、各種啓発業務を実施している。 - 組織体制・指揮命令系統等を定め、運用している。毎月 2 回の定例会に本社の担当者が出席し、本社からの直接の指示伝達や業務支援などを実施している。 - 緊急対応ができるよう、安全管理マニュアル及び対応体制（非常時、緊急時の役割分担）、緊急連絡網を毎年更新している。また、常勤職員全員が甲種防火管理者講習及び普通救命講習を修了している。	A
	2 (職員研修の実施)	- 年間を通して延べ 56 人が地球温暖化防止活動推進員の研修や里山関連のフォーラムなど計 43 件の講習や講座を受講した。 - 本社が「クレーム対応・危機管理研修」「ハラスメント研修」などの WEB 研修を定期的に実施している。また、実際の苦情等への対応について職員間で情報共有をしながら対応力をアップさせている。 1 月に環境先進都市を目指す京都府亀岡市が運営する施設「サーキュラーかめおかラボ」に出向き、「ストーリー性のある展示」「市民との協働」などについて学んだ。また、「本格紙漉きに挑戦」の講座を受講し、それをもとに令和 8 年度以降に紙漉き講座を開催することにした。シカの食害による里山の裸地化や土壌流出などを防ぐために、国崎ではシカの嗜好植物で和紙の原料でもあるミツマタとガンビを植栽している。こうした素材を利用した和紙作りと古紙のリサイクルについてのワークショップとし、ゆめはたるの運営の質を向上させることにつなげる。	A
	3 (日常業務及び緊急時等の対応)	- 貸館利用許可などの事務は原則として即日で実行している。利用者への受付案内は、即時対応している。 - 苦情の覚知は数か月に 1 回程度。頻発している状態ではない。 8 月の天体観望会参加者から「天候不良時は座学中心になることを事前に知りたかった。外での観察を楽しみにしていた」とのご指摘があった。以降の屋外関連の講座参加者には、受付時と開催直前の電話案内時に雨天時のことも説明するように努めた。 - 子ども向けの新たなコンテンツとして、ガチャガチャとエコアクションを合体した「未来ガチャ体験」を導入し、地域出前やスタンプラリーなどで活用している。	A
	4 (利用者の安全確保)	- 安全管理マニュアルを作成し、徹底している。館内の巡回時には、危険個所がないかをチェックしている。 - 安全管理マニュアルの内容は職員全員に徹底している。組合の自衛消防訓練に毎年参加している。	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
- シフト勤務を基本とし、夜間・早朝業務にも対応できる勤務体制が整備され、職員の資格や経験等を踏まえた適材適所の配置が行われている。 - 有給休暇は希望どおり取得できており、長期休暇取得時の業務フォロー体制も整備されている。時間外勤務についても適正な範囲内で管理されている。 - 本社からは運営支援や経理・人事管理に関するサポートが行われており、必要に応じて人的支援も実施されている。 - 所長・副所長不在時の代行体制が整備されており、指揮命令系統は適切に機能している。	A	令和 8 年 6 月 1 6 日に指定管理者評価協議会を開催し、指定管理者及び組合のそれぞれから評価の説明を受けヒアリングを実施した。ヒアリングの主な内容は次のとおり。 管理体制に関する項目 天体観望会において、悪天候時は座学中心の内容となることについて、利用者から事前に知りたかったとの意見があったことを踏まえ、外部講師と連携して実施する事業については、事前の打合せや情報共有を十分に行うとともに、利用者への周知及び各事業における安全管理の徹底が望ましい。	A
- 受講した研修内容は資料や報告書等により職員間で共有されており、環境学習ガイド等の施設運営に活用されていることを確認した。また、研修内容によっては即時に運営へ反映することが難しいものもあるが、中長期的な視点で施設運営や事業実施に活用されている。 - 研修は指定管理者において施設運営上必要と判断したものを選定しており、研修内容については朝礼や全体会議等で情報共有が図られている。 - 苦情対応については、研修で学んだ利用者への配慮や初期対応を実践していることを確認した。また、カスタマーハラスメントについては現在まで該当事例は発生していない。	A		
- 苦情については月次報告書により適切に報告されており、内容を関係者へフィードバックするとともに、その後の事業運営の改善に活用している。 - 施設管理業務において緊急対応を要する事業が発生した際には、関係機関への連絡を含め適切な対応が行われた。 - イベント参加者から寄せられた意見や改善要望については、講師や関係者へ共有し、内容の見直しや運営改善に活かしている。	A		
- 展示物や見学通路における注意喚起を行うとともに、施設点検表等を活用した日常点検及び目視確認を実施し、利用者の安全確保に努めている。 - 安全管理マニュアルについては定期的な内容確認や職員間での情報共有を行うとともに、イベント実施前には事前確認を実施している。 - 熱中症対策については、利用者への注意喚起やクーリングシェルトーとしての施設利用案内を行うほか、特別警戒アラート発表時の利用制限など、適切な対応が実施されている。	A		

項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
経営状況に関する事項	5	(経理事務の実施状況) ● 収支にかかる帳票類が整備されており、適正な経理処理が実施されている。	● 予算執行申請にて承認を取得の上、発注・購入等を実施。請求処理のものについては、月次単位で一覧化し、帳票処理関係者に共有。処理漏れの無い管理体制で対応している。 ● 支払等、月次で確実な処理対応を実施と同時に、電子帳簿保存対応、インボイス制度に合わせた帳票類の入手・整備等、法に準拠した処理を行った。 ● 施設側だけでなく、大阪事務所および東京本社経理部が都度、帳票類を確認。ミスのない体制での対応を継続実施している。 ● 適切な処理の継続性を保つため、東京本社経理部による定期的な内部監査を実施している。 ● 令和7（2025）年度に発生した帳票類について、施設内での保存（写し）を行っている。	A
	6	(収支の状況) ● 収支計画書と収支決算書に大きな乖離がない。	● 収支計画書と収支決算書との間に大きな乖離はない。 ● 支出については、事務費の抑制に努め、事業関連費及び、啓発施設の活動を支える人件費を十分に確保した。物件費については、高温と多雨のため大きなダメージを受けた多目的広場の芝生張替など、必要に応じた支出をおこなった。	A
	7	(販売売上の状況) A：350万円以上 B：250万円以上350万円未満 C：150万円以上250万円未満 D：150万円未満	● 今年度の事業収入は2,880,415円（内訳：講座・講演会参加費等が2,285,400円、雑収入が595,015円）であった。これは事業収入予算（3,000,000円）に、対して96%（講座・講演会参加費等は予算比104%、雑収入は予算比74%）の実績であった。昨年度の事業収入実績2,786,565円と比較すると、103%の増収という結果であった。増収傾向ではあるが、引き続き収益確保に努めたい。	B

評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等		評価
指定管理者の経営状況に関する評価については、協議会内で行うには専門的な分野であることから、専門部会を設けて評価を行った。5月21日に評価協議会委員（税理士）・所管課・指定管理者の三者にて会計処理評価部会を実施した。概要は次のとおり。 指定管理者から、各収支に係る会計処理方法と関係書類の保管状況、令和7年度収支金額についての全体説明、個別の各項目について説明を受け、質疑応答を行った。		B
1. 経理事務の実施状況 (1) ワークショップから発生する収益金 イベント・ワークショップは収益金の発生時に出納帳へ記載し、定番ワークショップについては予約票に基づき、ナンバリングされたチケットを購入頂き金庫に一時保管する。毎月末日に施設専用口座へ入金する。 (2) 会議室等貸し業務から発生する収受金 業務の一環として行う貸室等の収受金は指定管理者の収益にはならない。当該金銭の取り扱いについて、許可番号管理表ごとに金銭を収受し、一旦金庫に保管をした後毎月末に使用料報告書とともに施設組合へ納金している。 (3) 費用発生に伴う処理方法（会計処理） ① 小口現金での精算 主に移動交通費、少額な材料代及び備品等の購入その他必要時に応じて精算している。手順は予算執行申請書を作成して上長の承認を得ている。執行後、毎月15日と月末に帳票及び出納帳を大阪事務所へ提出し、その後東京本社にて内容チェックを受ける。 ② 請求書に基づいた支払 事務所内で必要となる備品類の購入、イベント・ワークショップ時に必要な材料代及び月次定例になっている運賃、光熱費等の支払。 手順は発注事案の発生に伴い、必要に応じて見積書を取り、上長の承認を得る。業者より送付された請求書に基づいて専用システムで経費伝票の起票をし、大阪事務所及び東京本社での承認をとり、東京本社の経理担当により業者への支払をする。 ③ 注文書を取り交わしての支払 イベント・ワークショップ、推進協力業者等への外注費の支払は注文書を取り交わして支払を行う。 手順は業者より見積書を取り、計画書と共に上長の承認を取る。見積書をもとに注文書を発行して再度上長の承認を取って東京本社にて注文書に社印の押印をする。協力業者より請書を取り、検収後上長承認を取り、東京本社経理担当にて業者への支払をする。 (4) 帳簿及び帳票類の閲覧 それぞれについて、上長等の承認が取れているかを確認した。その上で現金出納帳と領収書の突合、請求書に基づいた支払と請求書との突合、協力業者等への注文書と請求書及び支払明細書の突合をしたいいずれの項目についても不備は確認できなかった。 現金出納帳、見積書、請書、納品伝票、清算伝票及び予算執行申請書並びに使用料収入明細書、施設使用許可書等の各種書類は適正に保管・管理されていた。		
2. 経営状況（収支の状況） 総額については、概ね計画通りである。 個別では、人件費のうち後方支援スタッフ費用並びに事業関連費のうち広報宣伝費及び直接事業費が予算計画を上回った。前者は昨年に引き続き会計制度の変更（インボイス、電子帳簿保存法）等に伴う作業及びコンプライアンス準拠に沿った法務的要素の増加による支援スタッフ費用の増加によるもの。後者は施設の施策を実行するために必要であり、事業の一環として適正に行われたものと認められるものである。		
3. 販売売り上げの状況 販売売り上げ（事業収入）については講座・講演会参加費及び雑収入である。 ほぼ計画通りであった。		
4. 総評 概ね予算通りに実行されている。また、予算の執行についても指定管理者の定めた処理方法に則って正しく処理がされていたが、直接事業費が予算を上回っており、講座・講演会参加費等との収支バランスに課題があるため、改善が必要である。 証憑等の保存についても適切に保管されていた。不正等を未然に防ぐチェック体制が確立されている。		

項 目	評価項目	指定管理者自己評価	評価
		評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	
運営事業等に 関する項目	8 (利用者数) ● 利用者数増加に向けた工夫がされている。 【参考値】 A: 3万5千人以上 B: 2万5千人以上3万5千人未満 C: 1万5千人以上2万5千人未満 D: 1万5千人未満	● 団体見学、講座参加者への電話でのきめ細やかなフォローアップ、各種メディアを活用した広報活動、各利用者とのコミュニケーションなどの工夫で、利用者増加や再利用を目指す取り組みを続けている。 ● 周辺の他施設の催事と重なっていた11月の屋外フリーマーケット開催日を12月に変更し、館内フリーマーケットに切り替え、参加者増につなげた。さらに、施設外の公民館や集会所でのごみ減量講座や「カホンクラブ」の出張出演の機会を増やすなどアウトリーチ活動に努めた。 ● 着物リメイク、つまみ細工、金継ぎ講座などの人気講座は講師と調整してコマ数を増やして、利用者増につなげた。 ● 大規模催事の際は、能勢電鉄山下駅からの無料シャトルバス運行を継続し、利便性を高めている。 ● 上記の工夫の結果、年間の総利用者数は、21,274人であった。団体見学や多目的広場利用のスポーツ団体などの人数規模が縮小している中、積極的に地域出前などに出向き、ゆめほたるの周知とごみ分別・減量啓発活動に努めた。	C
	9 (利用者満足度) ● 利用者のアンケート等により、利用者の満足度を把握し、業務が実施されている。 【参考値】 A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	● 講座、見学、催事後のアンケート（有効回答 2,052名）において、概ね高い評価をいただいている。「とても良かった」と「良かった」を合わせた回答が、スタッフの対応については 97.6%、内容については 97%の満足度となった。	A
	10 (施設見学サポート業務) ● 学校等団体見学や、一般見学者に対し、それぞれ見学者に応じた案内業務が実施されている。 ● 本施設の設置目的達成のための「ごみ減量及びリサイクルに関する情報発信」に取り組まれている。	● 1市3町の小学校を含めた各学校の団体見学を例年通り受け入れ、25校 1,576名が来場された。各学校のご要望に合わせた提案と対応を継続している。 ● 動画やスタンプラリーなど低年齢向けのコンテンツを準備し、未就学児や放課後デイスサービスなどの団体見学時にご案内している。夏休みや春休みにスタンプラリーを実施することで、子ども達には施設見学だけでなく、遊びの要素とエコを組み合わせて楽しんでもらい、ご家族での再来館のご案内も行っている。 ● Instagramやブログ、地域への出前、啓発パネル展示などでごみ減量やリサイクルに関する情報発信に努めた。川西市役所、キセラ川西プラザ（6月）、豊能町立図書館（1月）、阪神北SDGsフェス（2月）でパネル展示を行い、ごみ減量やリチウムイオン電池の分別についての啓発を行った。能勢町立能勢さきゆり学園との連携展示も継続し、4年目となった。	A

所管課評価	評価	評価協議会評価	評価
指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	協議会内での質疑回答、備考等	評価
● 利用者に対し、事前連絡や当日の案内、欠席時のフォロー等を行い、利用者対応の充実に努めている。また、イベント実施時における柔軟な運営や、無料シャトルバスの運行、出前講座の実施等を通して、来館機会の確保に努めている。 ● 令和 7 年度の来館者数は 21,274 人で、前年度の21,688 人に比べ微減となった。一方、第4期開始の令和 4 年度以降は増加基調にあることから、引き続き利用促進に向けた取組の充実に求められる。	B	● イベント実施時の無料シャトルバスの運行について、その必要性や利用状況を確認したところ、指定管理者からは来館手段として一定数の利用があり、継続して実施しているとの説明があった。 ● 特に人気の高いプログラムについて確認したところ、フリーマーケットが最も人気のある事業であり、1回あたり約 60 店舗、約 800 人が参加し、年間 4 回で延べ約 3,200 人が参加していることを確認した。 ● 利用者数の参考値の取扱いについて確認し、評価指標から参考値へ変更した経緯について説明を受けた。指定管理者が利用者数の参考値をもとに自己評価を行っているが、参考値は数値目標ではなく、あくまで目安であることから、評価項目として記載を続ける必要性について検討が必要である。	
● アンケート結果のうち「良くない」「あまり良くない」とされた意見については、自由記述欄の内容を基に課題の把握を行っている。また、寄せられた意見については、運営改善や催事内容の検討に活用している。 ● アンケートについては、来館者の利用実態や参加動機、行動変容等を把握できるよう設問内容の見直しが行われ、令和 8 年 4 月から新様式へ移行している。令和 7 年度時点では旧様式による運用であったが、次年度以降の改善に向けた取組が進められている。	A	● 来館者の利用実態や参加動機、行動変容などをより把握しやすくするため、アンケート内容の見直しが行われ、令和 8 年 4 月から新様式に移行していることから、その内容を確認した。 ● アンケートの回収率について質問し、回収率が約 10%であることを確認した。これは他の施設と比較しても比較的高い水準であることが共有された。 ● アンケートの回収率向上に向けて、スマートフォンで回答できる仕組みの導入も検討してはどうか。	A
● 各学校の見学内容については、里山体験学習やリサイクル工作、昼食会場の調整等の個別要望に応じ、学校ごとの状況に合わせた柔軟な対応が行われている。 ● 見学後のアンケートについては、自由記述欄を中心に見学者や学校側の反応及び満足度を把握していることを確認した。自由記述の内容からは、約 6 割に環境意識の向上や行動変容につながる事がうかがえる記述が見られ、見学者の環境意識の向上や行動変容を促す効果的な施設見学が行われている。	A	● リチウムイオンバッテリーの分別啓発については、小学校見学では火災映像の刺激が強いことに配慮し、火災後の実物を展示して説明しており、一方、大人向けの見学では火災映像も活用しながら啓発を行っていることを確認した。	

項目	評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	11 (環境情報センター管理業務) 環境に関する書籍や各種資料、映像、ネットコンテンツ等を適宜収集し環境情報の提供が実施されている。	●環境に関する各種書籍や資料を継続して収集している。令和 7 年度は、寄贈と購入合わせて 205 冊増え、蔵書冊数は計 6,089 冊となった。利用人数は 1,503 人だった。 ●「おすすめの本」を紹介するメッセージを書き込んでもらったカードと一緒に書籍を展示するコーナーを新設し、利用者に親しんでもらう工夫をした。	A
	12 (講演会、講習会、研究会等開催業務) ●ごみ問題や環境問題のほか、地域の自然や人々の暮らしに役に立つ講演会や講習会が実施されている。 ●環境分野に関連する専門講師を招き、環境啓発事業が実施されている。	●天然記念物のお花見（エドヒガン）、ホテル観賞、天体観望会(2回)などを実施し、地域の自然に触れる機会を提供している。 ●第5期里山保全技術者養成講座「里山学校」を10月から3月にかけて全10回実施した。「木を伐って・森を育てる」をテーマに、前半は「里山整備について」、後半は「里山資源利活用について」学ぶ内容とした。兵庫県立人と自然の博物館の研究者ら12組の講師を招いた。講座を通して、受講者の中には“里山の奥深さ”への気づきがたくさん生まれたとのコメントもあった。森林整備や伐採作業の大変さを体感しつつも、その面白さに気づいた参加者が多く、修了後にゆめはたるの里山ボランティアとして加わる人が増えた。第4期の里山学校の受講者（大学生）から環境省への就職が内定した人もいる（令和8年度から環境省勤務）。	A
	13 (リサイクル工房活用業務) ●リユース・リサイクルについて体験型工房を活用した講習会が実施されている。 ●日常生活に役立つノウハウで習得できる講習会が実施されている。	●軽作業室で実施した陶器の修復「金継ぎ講座」が好評だった。大事な器がよみがえったと参加者の満足度が高かった。広報時点から反響が大きく追加講座も設けた。今後も継続予定。 ●修理工房での里山木工教室では、「キエーロ」という生ごみコンポスト作りを実施し、地域住民のごみ減量へ向けた新しいコンテンツとなった。現代の名工の指導による椅子の張替講座も継続中で、ものを大切にする気持ちをくむことにつながっている。 ●修理工房でのレザーリメイク教室には、使わなくなった思い出の革製品を持ち込み、アップサイクル作品を作られる方が多い。革細工作家でもある講師が、丁寧に指導してくれるので安定した人気講座となっている。 ●制作工房では、地域の活動団体「川西友の会」と連携して余熱調理のできる省エネグッズ“鍋帽子”を使ったクッキング教室を2012年度から継続実施している。日ごろから省エネを心掛けている団体の講座は安定した人気講座となっている。	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
●環境情報センターの利用者は団体利用（学校）やスタンブラリー参加者を中心に、幅広い層に利用されている。個人利用については若年層の利用や複数回利用も見られ、イベント参加を契機とした利用もある。 ●書籍・資料の充実については、利用者の滞在時間の増加や継続的な利用につながっていると考えられ、一定の利用促進効果がある。書籍や資料については、環境・ごみ問題に関する図書・雑誌等を基本とし、専門的評価の高い書籍や行政刊行物、構成市町に関する資料等、施設目的に沿った選定が行われている。 ●新規利用者の増加に向けて、環境情報センターの認知度向上や利用促進につながる情報発信の工夫が必要であることを共有した。	A	●環境情報センターについては、自然環境に関する資料や動植物の写真などの蓄積が十分に行われていないことを確認した。今後は、ごみ・廃棄物に関する資料に加え、自然環境に関する資料や写真についても継続的に収集・蓄積していくことを期待する。 ●書籍の寄贈受入れに関する明確な方針が定められていないことを確認した。環境情報センターとしての役割や収集方針に沿わない書籍の受入れを防ぐためにも、寄贈受入れに関する一定の基準や方針を整理しておくことが望ましい。 ●環境情報センターには専門的な資料もあるとの説明があったが、その役割をより明確にするためには、専門性の高い資料をさらに充実させていく必要がある。一方で、図書コーナーとして運営するのであれば、一般利用者が気軽に利用しやすい書籍や環境づくりも重要であり、今後、組合も含めて施設の在り方や役割を整理し、方向性を検討してはどうか。	
●自然体験型イベントや里山保全技術者養成講座等を通じ、施設周辺の自然環境を活用した学習及び里山保全ボランティアの育成を目的とした環境啓発が体系的に実施されている。また、これらの取組は構成市町の里山保全活動の担い手育成にも寄与している。 ●講座内容及び講師選定については、施設の設置目的や仕様書に基づき構成されており、講師は主に構成市町の在住・在勤者から選定しつつ、必要に応じて専門性を有する人材を活用している。	A		
●リサイクル工房を活用した講座については、リユース・リサイクルやごみ減量の意識醸成を目的とし、楽しさを入口とした環境学習の機会として体系的に実施されている。 ●金継ぎ講座、木工、レザーリメイク、省エネ調理等については、資源の再利用や環境負荷の低減に直接つながる内容として構成されており、参加を通じて環境意識の向上や行動変容を促す取組が行われている。 ●一方で、本施設の性質上、環境分野への関心を有する参加者のリピート利用が一定程度見られることは自然な傾向であるものの、今後はそうした既存の関心層に加え、関心が必ずしも高くない層をいかに施設へ誘引し、環境への理解や関心の向上、さらには行動変容につなげていくかが課題であることを共有した。	A		

項 目	評価項目	指定管理者自己評価	評価
運営事業等に関する項目	14 (屋外及び屋内を活用したイベントの開催) ● ファミリー層等多世代に向けた環境啓発につながるイベントが実施されている。	● 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等 ● フリーマーケットを4回実施し、リユース活動の場を提供している。4月のガレージマーケットは出店24ブース、来場者505人、9月の館内フリーマーケットは出店59ブース、来場者795人、12月館内フリーマーケットは出店59ブース、来場者825人、3月の館内フリーマーケットは出店59ブース、来場者846人だった。初めての出店という方からの問い合わせも多く、スタッフ全員で丁寧な対応を心掛け、終了後のアンケートでは「スタッフの案内が分かりやすかった」とのコメントをいただいている。 ● 9月と12月の館内フリーマーケットでは、JFEに協力いただいた家具を揃えた「リユース家具抽選会」を開き、集客とリユースの啓発に力を注いでいる。	A
	15 (屋外観察会開催業務) ● 里山を中心とした四季折々の自然を体験できるイベントが実施されている。	● 里山を活用した四季折々の自然体験では、ゆめほたる里山クラブ(里山ボランティア)のメンバーにご活躍いただいている。特に4月に実施した「天然記念物エドヒガンのお花見ガイド」では、自然観察と合わせて、地域産の菊炭を用いた野点体験を行い、里山文化と里山保全を一体的に学べる内容へと発展させた。野点で使用した炉・柄杓・茶杓は、いずれも里山クラブメンバーによる手製の道具であり、地域の技術と知恵を活かした取り組みとして参加者から高い評価を得た。これにより、参加者の満足度向上だけでなく、地域資源の価値再認識や里山保全への理解促進にも寄与している。 ● 6月のヒメボタル観察会は外部講師を招いて実施し、多くのヒメボタルを観ることができた。観察会を開催する数地内里山林については、ゆめほたる里山クラブメンバーの協力で事前に草刈りなどを行い、安全に観察会が出来るようにしている。 ● 2年目となる7月の昆虫教室は、昆虫に詳しいさすな京都スタッフを講師に招いた連携事業とした。昆虫にふれて楽しみつづ、生物多様性の大切さ、増え過ぎたシカの問題、生き物や森を守り、親しむ活動などについての話も交えた環境学習講座とした。 ● 夏はヘルセウス座流星群を、冬は月・土星・星雲をメインに観望できるように日程を組み、星空観望会を開催した。天候により屋内開催となっても満足度が下がらないようにダジックアース(デジタル地球儀)や星座早見表作りを準備するなどの工夫を継続している。	A
	16 (ボランティア運営業務) ● ボランティアの育成を行い、各種グループとの連携を図りながら事業が運営されている。	● 環境活動に意欲的な方々に対してボランティアグループの創設・運営の補助を行い、集いの場、交流の場を提供している。 ● 里山保全技術者養成講座「里山学校」を定期的実施し、里山ボランティアを育成している。里山学校の修了生がゆめほたるの里山ボランティア(ゆめほたる里山クラブ員)として数地内の里山保全活動を行っている。令和7年度は第5期里山学校を開催し、新たに13人の里山クラブ員が誕生した。 ● ゆめほたる里山クラブが中心となり、地域内の里山保全団体が集まる情報交流の場が継続している。地域に増えているシカの状況について、兵庫県立大学の調査にも協力した。 ● カホン(南米発祥の木製箱型打楽器)を作る木工講座をきっかけに、演奏活動にまで発展したカホンクラブ(ゆめほたカホーンズ)の運営・練習を補助している。地域の福祉施設や各種団体の演奏会出演の橋渡しを継続している。	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
- フリーマーケットについてはリユース活動によるごみ減量意識の啓発を目的とした事業として実施しており、広報等を通じてその趣旨の周知に努めている。 - 出店者アンケートを実施し、参加者の意見把握に努めるとともに、啓発施設としての目的と参加者ニーズの両立を図りながら事業運営を行っている。	A	- フリーマーケットの良さは、参加者同士のコミュニケーションの場となる点にあり、今後も「参加」「体験」「コミュニケーション」を大切にしたイベント等の実施が重要である。 - ジャズとホテルの観賞会は、環境学習と体験型イベントを組み合わせた取組として、新たな価値の創出につながっている。	
- 野外観察会については、施設周辺の自然学習ゾーンや緑地を活用した自然学習及び里山保全活動の推進を目的として実施されており、生物多様性への理解促進を図る取組となっている。 - 参加者の反応やアンケートにより満足度等の把握に努めており、非日常的な自然体験を通じて参加者からは高い満足度が得られている。 - イベント実施に当たっては、ゆめほたる里山クラブや外部講師と連携することで、安全確保や専門的知識を活かした内容の充実が図られている。	A	里山を活用した四季折々の自然体験が行われており、季節ごとの自然に触れながら学べる講座が実施されていることは評価できる。	
- 里山学校の受講生については、ゆめほたる里山クラブへの参画に加え、地域の環境保全活動や農業分野での活動、さらには環境行政分野で活躍する事例も確認されており、ボランティア育成事業が人材育成や地域活動への参画につながっている。 - ボランティアの活動は、施設事業の周知や環境啓発活動、地域との連携強化に寄与している。 - ボランティアの担い手確保は課題であると共有した。	A	里山保全技術者養成講座の必要性について確認したところ、受講者の中から里山ボランティアとして活動に参加する方もおり、人材育成につながっていることを確認した。	

項 目		評価項目	指定管理者自己評価 ●評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	17	(広報活動) ● 広報誌「森の泉」やホームページ等各種媒体を使用して、施設の宣伝や環境啓発が実施されている。	● 広報誌「森の泉」の編集については、組合の担当者、デザイン会社との調整・連絡を密にして、編集作業を充実させた。編集作業の効率を上げ、校正回数の減少に努めた。 ● メディア向けのプレスリリースを4件発信した。そのうち「ジャズとホテルの夕べ」については、「神戸新聞」「朝日新聞」「読売新聞」「暮らしの新聞」に掲載された。また、過去にブログで掲載した「廃ビンール傘を使った風づくり」の記述をきっかけに、日本テレビ系の番組「THE 突破ファイル」からの依頼で写真を提供し、全国放送された(6月19日)。 ● 猪名川上流広域ごみ処理施設組合が令和6年度に全国の地方公共団体で初めて導入した「メカニカルリサイクル」と「ケミカルリサイクル」を組み合わせたペットボトルの水平リサイクル(ボトル to ボトル)の手法に関して、組合と飲料メーカー、それにゆめほたとが協力して積極的に啓発・広報活動を展開した経緯を「月刊廃棄物」の5月号で詳しく掲載した。関係方面から高い評価をいただいた。 ● 発火したリチウムイオン充電池の実物を使った啓発展示は、環境啓発についての研究者に注目され、(一社)廃棄物処理施設技術管理協会の季刊「環境技術会誌」1月号で取り上げられた。	A
	18	(貸館の利用状況) ● 多目的広場や管理棟内等貸室の活用方法及び貸出方法について、稼働率を高めるための取組みが実施されている。	● 「施設貸出のご案内」チラシを増刷し、講師や利用者にご案内し、PRを継続している。 ● 多目的広場については日ごろから天然芝のメンテナンスを丁寧に行い、利用者が満足して使っていただける環境づくりに努めている。12月に大会開催のために利用した団体からは『天然芝で初めて試合するチームがほとんどで子供、保護者、指導者とも、ものすごくテンションが上がって大変盛り上がりました。』と喜びのメールをいただいた。 ● 見学ガイドの際、各工房に加えて管理棟の視聴覚室や講座室の説明も行い、お客さまの事情に応じて貸し出しをしていることをご案内している。	A
	19	(出前講座・出前展示の実施) ● 地域の各種団体や学校等でニーズに応じた出前講座が実施されている。 ● 地域の各種施設で展示啓発が実施されている。	● 地域の各種団体のご希望に沿った出前授業等を実施している。豊能町内の福祉施設や自治会4か所、川西明峰高校などへ出向いて、ごみ減量や地球温暖化防止などの環境啓発活動を行った。受講した高校生からは『環境について、普段の生活では考えたことのない色々な勉強をさせて頂いた。CO2、ごみ分別、地球温暖化など大切なことばかりで勉強になりました。』とのコメントがあった。 ● 川西市役所、キセラ川西プラザ、豊能町立図書館、川西びいばう広場などで啓発展示を行った。多くの方々の目に触れることで啓発につながっている。	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等		評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
● 広報誌の作成については、職員間の役割分担や本部による確認体制のもとで適切に実施されており、テレビ放送や新聞掲載による反響も施設PRに活用されている。 ● 編集・校正作業については、複数の主体による確認工程を経て実施されていることから、編集品質を確保しつつ更なる効率化を図る余地がある。 ● 環境に関する意識を啓発する記事を増やすなど、住民にメッセージを発する紙面作りを検討されたい。		B	● 広報誌は各講座の紹介や周知が行われていることを確認し、魅力的で工夫された紙面づくりがされており、年4回のポスティングも含め、施設の利用促進に効果的な取組として評価する。 ● 一方で、編集・校正作業について確認したところ、組合から校正回数が多く作業負担が大きいことを確認したため、編集・発行の役割分担を整理し、事務コストの削減と作業効率化を図る体制を検討する必要がある。	
● 貸館施設の稼働率向上に向けては、ホームページへの掲載やチラシ配布などの広報に取り組んでいる。 ● 更なる周知拡大については、構成市町の公共施設や窓口等を活用するなど、改善の余地はあると考えられ、引き続き検討が望まれる。		B	● 多目的広場利用者の来館方法について確認したところ、利用者が所有するバスや自家用車の乗り合わせなどにより来館していることを確認した。	
● 出前講座及び出前展示については、構成自治体との関係性及び環境分野との関連性を基準として適切に実施されている。		A	● 自治会や福祉団体へ出前講座の依頼経緯について確認したところ、先方からの要望を受けて実施しており、その実施内容を聞いた他の団体からの新たな依頼につながっていることを確認した。 ● 出前講座については、参加者に「行きたい」と思ってもらえる魅力的な内容づくりが重要であり、地域から自然に依頼が集まるようなコンテンツがあればなおよい。 ● 施設から構成市町へ出向いて行うアウトリーチ活動は、地域全体へ幅広く啓発を広げる目的で進められてきた経緯がある。今後は、どのような内容や方法で啓発を展開していくかについて、指定管理者と組合が連携しながら方向性を整理していくことが望ましい。	

項 目	評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	20 (地域活性化・地域貢献) ● 地域活性化や地域貢献に寄与するイベントが実施されている。	● フードドライブ事業で令和 7 年度は 9 件 13,8 k g を受け入れ、地域のこども食堂などへ寄附した。 ● 3 年目となる一庫ダムとの連携事業を実施。8 月に流木ベインティングと一庫唐松公園のクリーンアップを、9 月に流木アート作品の展示をゆめほたるで行った。 ● 平成 30 (2018) 年度より兵庫県立川西明峰高校の「明峰の学び」の講師として継続参加している。明峰の学びは地域や大学の様々な分野の講師が授業をする「総合的な探求の時間」の一環。5 月から 6 月にかけて計 4 回の講義を行っている。環境を学ぶゲームなど体験型プログラムを盛り込み、楽しみながら記憶に残る内容になるよう工夫している。 ● 「川西市環境フェスタ」、「黒川里山マルシェ」、猪名川町「いながわまつり」、豊能町祥雲館「笑雲カフェ」、能勢町「おおさかのてっぺんフェスティバル」「能勢みんなのつどい」などの地域コミュニティや地域福祉施設の祭りへの参加や環境啓発パネルの展示などによる地域活性化への協力を行った。	A
	21 (里山林等維持管理) ● 敷地内の里山を含む緑地や植栽の維持管理が適切に行われている。 ● 里山を活用した事業が実施されている。	● 国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学識経験者や森林整備専門家などから国崎の里山林保全についてのアドバイスを得ながら、ゆめほたる里山クラブも交えて、維持管理を行っている。 ● 天然記念物のお花見、寝ころびヨガ、丸太切り体験、着生ランのコルク付けワークショップ、昆虫観察会など季節ごとに里山を活用したイベントを実施している。	A
	22 (市町・各種団体との連携、協働、支援) ● 市町・各種団体と連携・協働しながら環境施策等への支援が実施されている。 ● 次世代育成の観点から、施設見学や環境学習におけるさらなる啓発効果を高めるための取り組みが実施されている。	● 継続して、川西市教育委員会が各小中学校の担当者を対象に 3 月に開催している説明会へ参加し、スムーズな団体見学対応が出来るように情報共有している。能勢町教育委員会と連携して、子どもたちのゆめほたる見学後の成果物の館内展示を継続している。 ● 川西市環境政策課と環境月間展示や環境フェスタ参加などによって連携・協働している。環境フェスタではゆめほたる里山クラブとゆめほたるとで 2 ブース出展し、里山の魅力発信とごみ分別啓発を行った。 ● トライやる・ウィークの中学生を受け入れ、環境学習の体験の場を提供している。6 月に川西市、9 月に猪名川町の中学生を受け入れた。	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
● 地域活性化・地域貢献に係る取組については、構成市町や関係団体からの要請に応じ、募集要項及び仕様書の趣旨に基づき適切に実施されている。	A		
● 里山林等の維持管理は、組合が実施する里山林整備構想に基づき、指定管理者が必要な協力を行うとともに、里山保全委員会や里山クラブ、専門家の助言を得ながら適切に運用されている。	A		
● 一庫ダムや図書館、社会福祉協議会、業界団体等との連携に加え、教育委員会や環境部局とも連携しながら、出前講座や施設見学等の環境啓発事業が適切に実施されている。	A	● 教育委員会や環境部局との連携状況について確認したところ、トライやる・ウィークやリチウムイオンバッテリーの啓発チラシ作成など、一定の連携は継続していることを確認した。 ● 一方で、令和 7 年度の環境部局との取組は川西市に限られていることから、今後は組合と協力しながら、他の構成市町との関わりもさらに深めていくことが望まれる。	

項 目	評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	23 (新規事業等) ●事業を常に見直し、業務改善に取り組み、新たな事業を展開している。 ●特に力を入れて取り組んだ事業。	●新たに「大阪・関西万博のごみのゆくえ展」(6月～10月)、「分別しよう これは何ごみ?展」(7月～)、「食品ロス削減パネル展」(10月～)などの展示を自主制作し、来場者へ向けて、身近なごみや環境について考え、意識変容へむけた啓発を行った。 ●リユース促進に効果的なフリーマーケットは、特に力を入れて準備し、来場者出店者双方に新鮮味を感じてもらえるよう努めている。9月にはアサヒ飲料による「ふるしきにお絵かき」教室、12月はゆめほたる講師によるワークショップ、3月は豊中・伊丹環境政策フォーラムによる「食器リユース市」と「廃材でアクセサリー作り」により、地域住民と共にごみにしないアクションを実施した。 ●ごみ分別に関して、福祉施設や地域自治会への出前の要望が4件あり、ごみの現物や動画などを交えて分かりやすく伝わるように努めた。『今以上に気を付けて分別したい、モバイルバッテリーも注意が必要とよくわかった』などのコメントがあった。 ●地域の小学4年生の見学受け入れについては、引き続き力を入れている。リチウムイオン電池の処分方法についての説明を継続している。JFEに取り置いていただいたリチウムイオン電池の燃えがらの現物を展示し、ガイドにも組み込むことで分別意識を高める工夫をしている。 ●令和7年度は第5期里山保全技術者養成講座「里山学校」を実施し、里山ボランティアの養成に力を入れた(「里山学校」修了生がゆめほたるの里山保全ボランティアとなる)。過去4期の修了生による里山里山保全ボランティア(ゆめほたる里山クラブ員)は活動を継続している。第5期里山学校の運営に協力いただいたほか、若生ラン講座(6月)、小学生の里山体験学習、中学生のトライやる・ウィーク、催事での丸太切体験、地域への出前、地域の里山保全団体の会合、兵庫県立大学調査協力などで活躍いただいた。	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
● 構成市町の住民を対象とした環境啓発の入口機能を担う施設として、設置目的を踏まえながら、時宜に応じた展示や講座の企画・実施、新規事業の展開に取り組むとともに、既存事業についても見直しを進める考え方が示されている。 ● 一方で、事業実施後の効果検証において、不具合等に対する改善は見られるが、改良に向けた事業実施への落とし込みや掛け合わせ等による発展作用、相乗効果に期待する。	B	●各事業の目的や意義について整理が進められたことは評価できる一方で、引き続き事業内容を精査し、必要に応じて整理・見直しを行う必要がある。 ●バックカーを活用した体験事業やオリジナルグッズの制作など、施設ならではの特色を活かした魅力あるコンテンツの開発が望まれる。	

総合評価 A	委員からの確認事項及び意見を踏まえ、指定管理者による施設の管理運営状況について、管理体制、経営状況及び運営事業の項目ごとに総合的な評価を行った。施設の設置目的に沿った取組が概ね適切に実施されており、次のとおり評価結果を取りまとめた。 «総括評価» ●「管理体制等」については、施設の維持管理及び事業運営は適切に実施されており、良好に機能していると評価できる。また、施設の安全確保や自然環境の維持管理にも継続して取り組まれている。 ●「経営状況等」については、会計処理及び関係書類の管理は適正に行われており、不正防止に向けたチェック体制も確立されている。収支についても概ね計画どおり執行されている。 ●「運営事業等」については、環境学習・啓発施設として、多様な講座やイベントを実施し、利用者の環境意識の向上や行動変容につながる取組が行われていることは評価できる。また、事業内容の整理・見直しを進めながら、施設の特色を活かした効果的な事業運営に努めている。 «総合評価» 以上の3項目については「A」評価が2つ、「B」評価が1つとしており、評価指標基準のとおりに総合評価としては「A」評価とする。
------------------------------------	--

付帯意見	●直接事業費が予算を上回り、講座・講演会参加費等との収支バランスに課題が見られることから、改善に向けた取組が必要である。 ●利用者ニーズの把握を充実させるため、スマートフォン回答の導入など、アンケート回収率向上に向けた取組を検討されたい。 ●天体観望会において、悪天候時は座学中心の内容となることについて、利用者から事前に知りたかったとの意見があったことを踏まえ、外部講師と連携して実施する事業については、事前の打合せや情報共有を十分に行うとともに、利用者への周知及び各事業における安全管理を徹底されたい。 ●環境情報センターとしての機能充実のため、写真や活動記録等の資料を継続的に収集・蓄積するとともに、寄贈資料の受入れ方針について整理されたい。 ●環境学習・啓発事業のさらなる充実に向け、構成市町環境部局との連携強化については、組合と連携し取組まれたい。
--------------------	---

付帯意見への対応	※「付帯意見への対応」欄については、現在、指定管理者からの回答待ちのため空欄としております。回答を受領後、追って記載いたします。
------------------------	---